

【番組名】群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

【放送日】2023年10月20日

【テーマ】日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) コメンテーターに専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』のコーナー。日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(肥後支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、10月2日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。日銀短観は、3か月に一度の調査で、全国では約1万社を対象に業況感や売上高などを調査しています。本日は、群馬県内の約180社を調査した結果をご説明します。

(キャスター) 前回の調査は6月でしたね。

(肥後支店長) はい。こちらのフリップをご覧ください。

最近の金融経済環境		
地域	出来事	
米国	(6月)	(変更なし)
	(7月) 政策金利引き上げ	0.25%
	(9月)	(変更なし)
欧州	(6月) 政策金利引き上げ	0.25%
	(7月) "	0.25%
	(9月) "	0.25%
中国	(6月) 政策金利引き下げ	▲0.10%
	(8月) "	▲0.15%
日本	(5月) 新型コロナウイルスが5類に移行 (半導体部品) 供給不足が緩和 (消費者物価) 3%台の伸びが続く	

(肥後支店長) 前回の6月から今回の9月までの経済環境を振り返ってみたいと思います。米国ではインフレの抑制を目的とした政策金利の引き上げはスローダウンしましたが、欧州では政策金利を引き上げる動きが継続しました。一方、中国では経済の回復ペースが遅いため、政策金利を引き下げています。引き続き、海外経済減速による影響が懸念された時期でした。

(キャスター) 国内経済はいかがですか。

(肥後支店長) はい。国内では、5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、行

動制限のない夏休みシーズンを迎えましたので、旅行やレジャー需要が高まりました。また、自動車向けの半導体不足が緩和したことも良い材料だったと思います。一方で、消費者物価指数は3%台の伸びが続き、物価高が続きました。

(キャスター) そのような中で、今回の調査では、どのような特徴がみられましたか。

(肥後支店長) はい。こちらのフリップをご覧ください。これは、業況が「良い」と答えた企業の割合から、「悪い」と答えた企業の割合を引いた、業況判断D I という指標です。この数値が大きくなるほど、企業の景況感は改善していることを示しています。



(肥後支店長) 今回は、製造業、非製造業ともに前回調査から悪化し、全産業はマイナス1からマイナス5になりました。全産業では2022年3月から業況の改善傾向が続いていたので、1年半振りに悪化したこととなります。

(キャスター) 全体的に悪化していますが、その要因は为什么呢。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

	前回 23/6月	今回 23/9月	変化幅	企業のコメント
全産業	▲1	▲5	▲4	
製造業	▲11	▲18	▲7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外経済の減速(鉄鋼)</li> <li>● 原材料価格上昇による利益悪化(電気機械、輸送用機械)</li> <li>● 販売価格上昇による需要減少(食料品)</li> </ul>
非製造業	12	9	▲3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売価格上昇による需要減少(卸売、対事業所サービス)</li> </ul>

(肥後支店長) 左側に業況判断D I の変化、右側に調査した企業からのコメントを記載しています。製造業のD I は、前回のマイナス 11 から、今回はマイナス 18 と、7 ポイント悪化しました。海外経済減速の影響に加えて、原材料価格が上昇したことによる利益の悪化や、販売価格を引き上げたことで需要が減少したとの声が聞かれています。

非製造業でも、販売価格の上昇によって需要が減少したとの声が聞かれており、D I は前回のプラス 12 から、今回はプラス 9 と、3 ポイント悪化しました。

(キャスター) 製造業、非製造業とも物価高の影響がみられているんですね。先行きについてはどうでしょうか。

(肥後支店長) はい。こちらのフリップをご覧ください。こちらは業況判断D I の先行きの見通しを示したものです。

**業況判断D.I.(今回→先行き)**

	今回	先行き		企業のコメント
	23/9月	23/12月	変化幅	
<b>全産業</b>	▲5	0	+5	
<b>製造業</b>	▲18	▲7	+11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自動車生産回復に期待(輸送用機械、化学)</li> <li>●中国経済回復に期待(化学)</li> <li>●半導体市場回復に期待(輸送用機械、電気機械)</li> </ul>
<b>非製造業</b>	9	8	▲1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナの影響緩和によるイベント需要回復に期待(対個人サービス)</li> <li>●燃料高や人手不足の影響を懸念(運輸)</li> </ul>

(肥後支店長) 製造業では、今回のマイナス 18 から先行きはマイナス 7 と、大幅な改善が見込まれています。自動車の生産回復に伴う業況の改善を見込んでいるほか、中国経済回復を期待する声も聞かれました。また、半導体市場が持ち直すことを期待する先もみられています。

非製造業の先行きは、プラス 9 からプラス 8 と、ほぼ横ばいです。コロナの影響緩和によるイベント需要の回復を期待する先がある一方、燃料高や人手不足による影響を懸念する先もあり、全体ではプラスマイナスが綱引きする形です。

(キャスター) 先行きについては、製造業を中心に明るめにみているようですね。

(肥後支店長) そうですね。ただし、物価高の影響は引き続き企業の利益の下押し要因になるとみえています。

こちらのフリップをご覧ください。このグラフは、企業の仕入価格

と販売価格について、「上昇」と回答した企業の割合から、「下落」と回答した企業の割合を引いた価格判断D Iの推移です。数字が大きいほど「上昇」の動きが強いことを示しています。



仕入価格D Iは、昨年9月の76をピークに下がり始め、先行きも低下する見込みです。引き続き多くの企業で仕入価格が上昇していますが、その勢いは徐々に弱くなっています。

一方、販売価格D Iも昨年12月の36をピークに、低下傾向にありますので、販売価格を引き上げる動きも、徐々に弱くなっています。先行きの仕入価格D Iと販売価格D Iには依然として大きな差がありますので、価格転嫁ができずに、利益が悪化する企業が今後もみられると考えています。

(キャスター) 価格転嫁できている先とそうでない先で、特徴はありますか。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

### 2023年度・計画

(前年比、%)

	売上高	経常利益	企業のコメント
<b>大企業</b>	<b>7.7</b>	<b>3.2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産の回復や値上げ効果(輸送用機械)</li> <li>新規出店効果(小売)</li> </ul>
<b>中堅企業</b>	<b>6.1</b>	<b>▲2.2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入価格やエネルギー価格の上昇(窯業土石、金属製品、生産用機械、小売)</li> </ul>
<b>中小企業</b>	<b>2.2</b>	<b>▲15.6</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入価格やエネルギー価格の上昇(業務用機械、運輸・郵便、対事業所サービス)</li> </ul>

(肥後支店長) こちらは、2023年度の事業計画を企業規模別に集計したものです。売上高は、どの企業規模でも前年比プラスになっていますが、大企業がプラス7.7%であるのに対し、中小企業ではプラス2.2%と伸び率が小さくなっています。

経常利益については、大企業はプラス3.2%の増益計画となっている一方、中堅・中小企業では、仕入価格やエネルギー価格の上昇から減益計画となっており、特に中小企業はマイナス15.6%と大幅な減益になる見込みです。このことから、規模が小さい企業ほど、物価高の影響により利益が悪化していることが窺われます。

(キャスター) 企業の規模によって物価高の影響に差が出ているのですね。このほかに、注意すべき点はありますか。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。このグラフは、雇員人員について、「過剰」と回答した企業の割合から、「不足」と回答した企業の割合を引いた雇員人員判断D.I.の推移です。数字が下がるほど、人員が「不足」している企業が多いことを示しています。今回の短観では、非製造業を中心に人手不足感が一段と強まっていることが分かりました。



(キャスター) それでは、最後に今回の短観結果についてまとめていただけますか。

(肥後支店長) はい。昨年からコロナ禍の影響緩和によって非製造業を中心に業況改善の動きが続いていましたが、今回の短観では、物価高による利益の悪化を主因に業況改善の動きが鈍りました。特に、中小企業では、経常利益の大幅な減益が見込まれていますので、企業規模が小さいほど物価高の影響を受けていると言えます。先行きは自動車生産や海外経済の回復を見込む先があつて業況が改善する見通

しですが、一方で、人手不足の問題は深刻化しています。企業経営を巡る環境は楽観視できないと考えています。

(キャスター) 本日は、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。

(肥後支店長) ありがとうございました。

以 上